

# 地域とともに考える高齢者の見守り

河野 あゆみ

Ayumi Kouno

## 1. 地域での高齢者見守りの必要性

近年、大阪市をはじめ、大都市部では、人口の高齢化とともに、一人暮らしの高齢者数も増加してきており、高齢者の社会的孤立について着目されてきている。

高齢者が社会的に孤立することによって、孤独死や介護心中、虐待など、高齢者の健康や安全を脅かされる（図1）。また、地域高齢者の社会的孤立の背景には、老化や要介護状態など身体機能の衰え、経済力や生活環境が十分でないこと、孤独や不安な状況、一人で過ごす時間が長いことなど様々な要素に加え、周囲の人とのつながりに無関心である、信頼が低いなどの地域性などに関する要素が存在すると考えられる。

例えば、県営住宅の一人暮らしや高齢世帯の高齢者945名に行った孤独死の意識に関する調査<sup>1)</sup>では、30.8%の者が「孤独死を非常に身近に感じている」、31.7%の者が「まあまあ感じる」と半数以上は身近な問題と感じていた。その一方、高齢者の近所とのふだんのつき合いについては、「親しくつきあっている」と回答

した者はわずか34.5%であった<sup>1)</sup>。

近年ソーシャル・キャピタルという考え方が注目されている。ソーシャル・キャピタルとは社会資本とも訳され、人々の協調行動を促す信頼・規範・ネットワークなど社会組織の特徴を意味する概念である<sup>2)</sup>。ソーシャル・キャピタルが高い社会、すなわち、共通の規範や信頼関係があり、ネットワークで問題が解決できる社会は安心して暮らすことができるともいわれている。また、フィンランドの女性3689名への縦断研究ではソーシャル・キャピタルが高い場合、その後の死亡率が低くなるなどの結果も報告<sup>3)</sup>されている。この分野における実証研究は、十分な蓄積があるとはいえないが、その地域のソーシャル・キャピタルが高いほど健康であり、人々は暮らしやすいと推測される。地域における人々相互のつながりが希薄になってきている現代社会においては、ソーシャル・キャピタルを強化していく1つの方法として、地域での高齢者見守り活動が挙げられると考える。

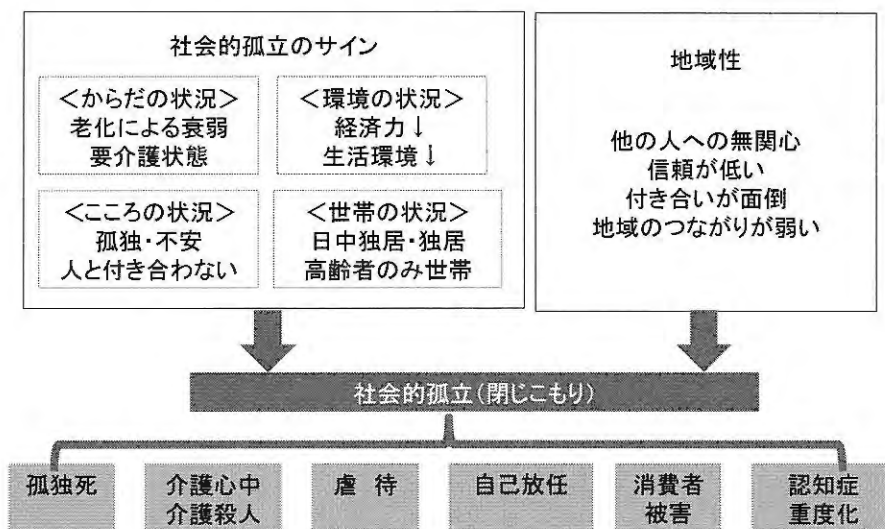


図1 高齢者の社会的孤立による弊害

## 2. 地域高齢者の健康レベルと地域見守り

### 1) 第1段階の地域見守り：健康な高齢者

高齢者の地域見守りには高齢者の健康レベルに応じた活動があると考え、第1段階から第3段階までの地域見守りの役割について、次に述べる。

第1段階の地域見守りの対象は健康な高齢者である。健康な高齢者はより活動的に、安心して暮らしていくことをめざす必要がある。第1段階の地域見守りの方向性としては、その地域で暮らす住民同士が地域交流に関心や興味をもつことをねらい、近隣の人との挨拶やコミュニケーションを常日頃からとるなど、地域交流の基盤をつくるのが大切である。

### 2) 第2段階の地域見守り：虚弱な高齢者

第2段階の地域見守りの対象は虚弱な高齢者である。虚弱な高齢者は要支援・軽度要介護高齢者などに相当し、適切な予防をすれば、身体機能の改善やさらなる機能低下の予防が期待できる対象者である。このような高齢者には、社会的孤立に至る前に、専門機関が適切な対応を行えば、孤独死や虐待など重大な問題に発展しないと考えられる。

リスクを抱えている虚弱高齢者は自ら周囲に助けを求めないことが多い。したがって、身近に暮らしている地域住民が虚弱な高齢者の社会的孤立のサインにできるだけ早期に気づき、行政や地域包括支援センターに相談や情報提供を行える見守り体制づくりを行うことが重要である。

### 3) 第3段階の地域見守り：重度の要介護高齢者

第3段階の地域見守りの対象者は重度の要介護高齢者である。寝たきり高齢者や重度の認知症をもつ高齢者は、障害を持ちながらもその生活の質を可能な限り、維持していくことが必要である。大部分の重度の要介護高齢者は、介護保険サービスなどが提供されていたり、保健医療福祉職がかかわっていることが多いが、これらのフォーマルなサービスに加え、近隣住民などによる見守りが行われることによって、より良い生活を送ることができると思われる。

## 3. 地域とともに考える見守り活動

### 1) 地域高齢者への見守り活動の形態

地域高齢者への見守り活動は、多くの自治体でとり組まれているが、大きく分けて、次の2つの形態に分類で

きる。

第1に、自治会や民生委員、福祉関連の住民ボランティアなどの地域住民、行政や地域包括支援センター、在宅ケア事業所の職員等のチームによる見守り活動等が挙げられる。このような活動では、高齢者の実態を把握する、声かけ訪問を行う、高齢者等が気軽に集まることができるサロン活動を行うこと等が挙げられる。

第2に、新聞配達や配食サービス、ゴミ収集等の既存のサービス事業や緊急通報装置等を活用して、安否確認を行う方法等が挙げられる。

### 2) 住民とともに取り組んだ見守り活動例の紹介

講演では、著者らの研究室でアドバイザーとしてかわってきている大阪府松原市A地区（531世帯）とB地区（377世帯）で取り組んでいる地域高齢者等への見守り活動の例を紹介した。

松原市では、平成22年度に自治会や老人会役員、民生委員、福祉委員や住民ボランティア、ならびに地域包括支援センター、市高齢担当課、社会福祉協議会の職員、筆者ら大学教員を構成員として高齢者等の見守りチームを立ちあげた。この見守りチームでは、チームメンバーの住民が自治会名簿などを活用しながら、該当地区の全高齢者宅に訪問し、見守りが必要な高齢者の実態を把握する安心チェック訪問を毎年行うことにしている。なお、この訪問では、表1のシートを活用している。

平成23年度は、図2に示す流れで安心チェック訪問を実施した。まず、第1回の見守りチーム会議では安心チェック訪問の対象者名簿等や手順を確認した。安心チェック訪問では、チームメンバーと自治会班長と2人一組で訪問するため、安心チェック訪問の説明会を実施した（第2回チーム会議）。また、その地域で暮らす住民に見守り活動の意義や目的を周知するためのチラシを自治会等を通じて全戸配布を行った。平成23年度は、2地区の高齢者計565名（100%）に訪問し、状況把握ができた高齢者は533名（94.3%）であり、協力状況は極めて高かった。第3回チーム会議では、それらの訪問結果をもとにチームメンバーで支援が必要な人を検討した。平成23年度は、住民で継続して見守る予定の事例数は16名、地域包括支援センターで再訪問し、フォローアップした事例数は19名であった。年度末に行った第4回チーム会議では住民への高齢者見守りに関する研修、地域包括支援センターでフォローアップした高齢者事例の状況報告、訪問結果のまとめ等を行っている。

松原市では、上記の流れを原則として安心チェック訪問を行うことにしており、平成24年度現在もその活動を

表1 安心チェック訪問シートの概要

項 目	内 容
基本情報	氏名、年齢、世帯、電話番号、緊急連絡先
健康状態	健康状態、利用している介護サービス
情報提供の同意	市、地域包括支援センター、社会福祉協議会、見守りチームにお話頂いた内容を伝えて良いですか。
外観の観察	ポストに郵便、新聞がたまっている カーテンや雨戸が閉まりっぱなしである 自宅の周囲が異常に散らかっている 最近高齢者の姿を見かけない
面会時の様子	高齢者は自分から話すことがなく、無表情だった 高齢者の服装が乱れている、身なりが整っていない 高齢者との会話が通じにくかった 高齢者は他人と関わりたくなさそうだった 高齢者の歩き方、立ち上がり方が危なっかしそうだった 家の中が異常に散らかっていた

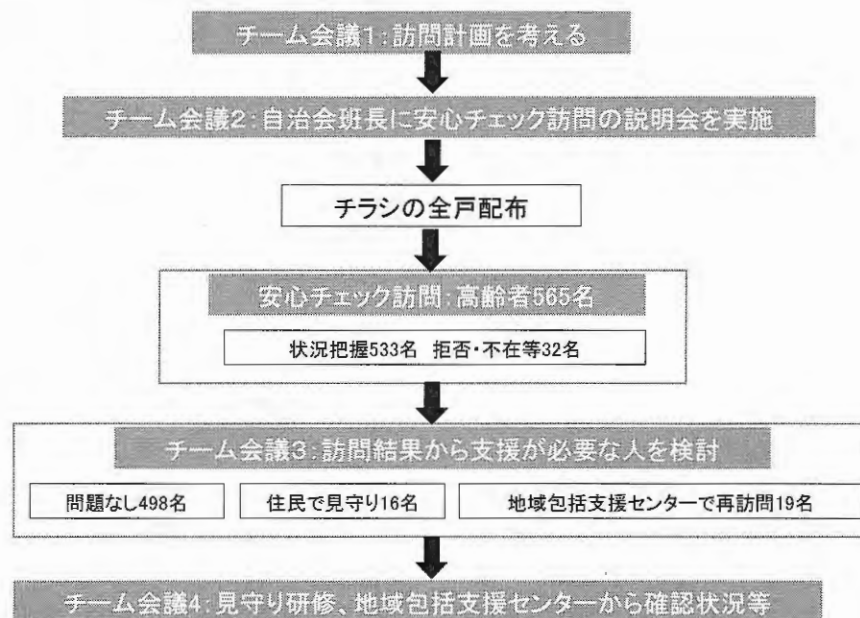


図2 H23年度 大阪府松原市安心チェック訪問の流れ

継続している。また、対象地区をさらに増やし、地域住民とともにその地域の特徴に応じた方法を考慮しながら、精力的に見守り活動を進めているところである。これらの見守り活動を行うことにより住民の意識も高まってきたこと、また、高齢者の孤独死等が発見されても比較的早い時期に適切に対応できているなど、成果は少しずつあがってきていると考える。著者らの研究室では、見守り活動の評価指標として地域コミットメント尺度<sup>4)</sup>等を開発しており、今後、これらを活用して、地域

高齢者見守り活動の意義や効果についても実証することが課題である。

## 文 献

- 1) 三冬社編集部. 少子高齢社会総合統計年報2013. 東京: 三冬社. 2012.
- 2) Putnam RD. 河田潤一訳. 哲学する民主主義: 伝統と改革の市民的構造. 東京: NTT出版. 2001.

- 3) Hyypä MT, Mäki J, Impivaara O, et al. Individual-level measures of social capital as predictors of all-cause and cardiovascular mortality: a population-based prospective study of men and women in Finland. *Eur J Epidemiol.* 2007 ; 22(9) : 589-97.
- 4) Kono A, Tadaka E, Kanaya Y, et al. Development of a community commitment scale with cross-sectional survey validation for preventing social isolation in older Japanese people. *BMC Public Health.* 2012 ; 12 (903).